

栄区囲碁関連3団体トップによる『新春座談会』:ダイジェスト版

(編集、文責:小田編集員)

- 出席者 : 栄区囲碁連盟会長:久保発喜氏
: 日本棋院横浜栄支部長:肥塚淳次氏
: 栄区囲碁普及会々長:杉浦次利氏

○ 実施日 : 地球市民プラザ「メルヘン」

○ 場 所 : H22年12月27日(月)

○ 主 催 : 「さかえの石音」編集部

○ 進行・小田編集員、カメラ・橋本編集員
(二人はオブザーバーとして話合いに参加)

○ 注 釈 ①紙面の都合上発言者のお名前を、

「久保会長⇒”久”、肥塚支部長⇒”肥”、杉浦会長⇒”杉”」と記した。

②代表、支部長のお三方には「テープ起こし<記録>」を提出し、発言内容のチェック・修正を頂いた。



【会 談 内 容】

進行役の小田編集委員より、「お気軽に話を進めて頂ければと存じますが、先ず昨年はどうな1年でしたか? という事で久保会長からスタートして頂ければ・・・」と発言あり。

久 総論から言えば大変盛り上がった有意義な1年でした。各団体、すなわち日本棋院横浜栄支部、栄区囲碁普及会、楽碁会などはそれぞれ独自性をもって活動されていますが、皆様方と連携を図りながら運営したことが多くの大会参加者を得たことと思います。

ここまで盛り上がりを見せているのは、連盟発足以来関係者の努力と会員の方々のご協力のお蔭と感謝しているところです。

肥 日本棋院横浜栄支部は今年結成3年目で、昨年度支部会員増全国ベスト2で表彰されたのが大きな励みとなりその勢いで6月と12月にはプロ棋士2名ずつを招聘して「親子教室」、「指導碁」、「段級位認定会」を開催できました。今年度も「支部会員数ベスト12」及び「会員増ベスト5」で表彰されます。又神奈川県内では会員数1位で、熊六段(プロ)の話では日本棋院でも注目されているとの事、今後何処まで続くかわかりませんが、このまま突っ走りたい。今日本の囲碁界は60歳以上の方々で支えられているが、当面は仕方がないが、やがて若い人達へバトンタッチしていかなければいけないと考えています。

杉 大人の方はお二人の話でわかる通りそれなりに安定して進んでいるが子供達の方は行き詰っていると思うので、支部が「親子教室」を2回開催してくれたり、連盟主催の「囲碁まつり」で下のクラスを特設して貰ったりで大変良い年であったと思っています。又「こどもとおとなの囲碁大会」で神奈川新聞が良い記事を掲載してくれてインストラクターの人達へ大きな励みになったことから、今年は非常に良い年であったと考えています。

肥 神奈川新聞で報道された事から、栄区から横浜市、神奈川県と又地方区から全国区への道筋が見えてきたと感じています。記事を書かれた山本さんは同新聞社から良い記事として賞を頂いたそうです。これはこの記事が社会面を飾ったというだけでなく、神奈川新聞社として評価したということで、我々も自信を持って活動していけば良いと思います。

久 それは大変良いことですね。バックグラウンドとして情報を提供するツールとして「さかえの石音」も重要性が認められたと思います。

肥 各団体はそれぞれの歴史を背負って活動しており、今のところそれぞれ上手くすみわけが出来ているので、変に足の引っ張り合いとか競合をせずお互いに持分を守って協力し合うのが最良だと思います。

神奈川県下を見ても、例えば囲碁連盟がない地域が多くあり相模原とか厚木では、先に日本棋院・支部があり、近年になって囲碁連盟を作りましょうという事になった。このように色々な生い立ちがあり、画一的ではない。それゆえ、異なるバックグラウンドの中で自由な形態で発展させているのが現状です。

久 日本棋院は全国区であってその中に日本棋院支部があって、日本全体の中での活動状況で今があり、極めて優秀な団体に発展してきていると認識していました。普及会についてはその活動は広域的に大変高く評価されているように認識していますが・・・？

杉 普及会としては、今年の春先に子供達が鎌倉子供囲碁大会に参加し、好成績を残した実績がありますがそれ以外あまり他の地域との交流はなかった。ただ、今までに小学校のクラブとか「はまっこスクール」を中心に活動をやってきたが行き詰まった状態にあるので、これからは別な方策として「子供達が碁を打てる場所」をどうやって作ったら良いのかが1つの課題と思っています。具体的な例としては楽碁会より下のレベルの人達が碁を打てる場所として、「本郷中学校・日曜教室」の場所を午後開放している「アミー碁(ザル碁より甘い)」に子供達に碁を打てる場所として提供してくれるようお願いしたところ快く受けてくれました。このことから他にも自由に他にも碁を打てる場所が欲しいと考えています。腹案としてはいずれ、例えば「はまっこ囲碁大会」のような子供でもっと低レベルの大会を検討したいと考えています。現在子供向けを担当している石附氏が大変熱心なので協力を願えると期待しています。

(小田) 進行役が口を挟んで申し訳ありませんが、普及活動には指導法も大切だと思います。先日横浜囲碁連合会の秦会長が、ある講座で「横浜18区で栄区の高段者のレベルは高いが、もっと注目すべきはこの方達(高段者で普及に携わっている方)の指導レベルは全国レベルで大変誇れる事です」と紹介されました。そこで長年指導に苦勞されている皆様に、指導法について日頃心がけている点をご披露いただけたらと思います。

肥 私は、大人に対しては原則自己責任で良いと考えています。ただ楽しく又わかり易くが非常に大切だと思っています。最近の講義において”教わった時は分かったような気がするが、実際のところ分かってない”とある生徒さんに云われたが講師から言わせて貰えれば分かったような気にさせる教え方をしているのだから、基本はそれでよいと考えています。ただその後は生徒さん自身が気付いてくれれば良いと思っています。ただ子供はちょっと苦手で(全員笑いあり、うなずく)、自分の悪いところが全部出てしまうのでは・・・？といつもそういった事を気にしてしまう。子供に対しては自己責任とはいえませんね。大人には自己責任が通っても子供にはちょっと無理で、気にしてどう対応すれば良いのか・・・と。



杉 大人に対しては理屈で打て、子供は感覚で打てるようにと指導しています。ただ入門クラスで言えば「終局したあと死んでいる石は取り上げて良い」ということをどうやって理解させたら良いのか、ずっと悩んでいて先日(アマチュアで県代表クラスの)永代氏に(支部主催の「親子教室」にて)その点を聞いてみたところ”もう慣れですね！”といわれてしまいました。本来中国ルールで説明すれば(空き地点を全て埋められるから)理解しやすいのかなと考えているが、どうやって上手く組み合わせで説明すれば良いのか悩んでいます。

久 先程高段者レベルが高いとの紹介がありました。これは先に開催された第1回横浜市最高位戦において、栄区代表で参加された正田氏、肥塚氏、三間氏の3人が3勝賞の好成績を挙げられ、栄区がハイレベルにある事を示して頂きました。これは栄区の大変なPRにもなりました。この大会の主旨は、ハンデなしで実力を競うと共に参加の高段者の方々が向上を目指す人達に対し「レベルアップ指導をおこない」底辺拡大に貢献していただきたいとの願いがあるのです。栄区にも多くの高段者がいらっしゃるので、自身のさらなるレベルアップに努められるとともに上達したい方々への啓蒙、普及活動に当たって頂き、囲碁ファンが益々増えることを願っています。

杉 私も栄区に引っ越してきてすぐに囲碁連盟に入ったのですが、大会を見ていて「無差別戦」がないのをずっと不思議に思っていました。通常囲碁大会は、無差別戦があってその下に高段者のハンデ戦があります。実現は難しいかもしれませんが高段者・無差別戦が有っても良いのではと考えています。

肥 どうあれば良いのか？手間も大変だし・・・と思うと必ずしも無差別戦がなくてはならないという事にもならないけれど、個人的には10月頃から碁を打つことが一向に面白くなくなりました。碁を打っていても面白くないので、どうして？とずっと考えていたところ”あ！もうこれ以上自分は強くならないのでは・・・？”と思い始めたのがきっかけのような気がしました。「囲碁だけではないかもしれませんが、なんでも進歩の余地や希望があって楽しのだ」という思いに至りました。

(小田) 其れはご自分の周りにライバルが少ないという事も一因では？

肥 そういうこともあるけれど何か実戦で”あ〜、ここはこうしか打てない”などと自分で垣根を作ってしまうようだ。これは自分だけではなく、例えば二、三段の人達でも”あ〜俺も此処まででお終いか”と思う人が多いと思う。そうなると伸びも止まるし碁を打つことがつまらなくなってしまう。だから希望があった方が良く、久保さんが言われた通りそういう大会も1つの希望になるし、別な方法でも良いのだけれども…。今は少しずつ”いやいやもう少し伸びる余地が、少ないけどあるのでは？”と思い直しています。他の人も何らかの格好でそういった思いとか希望を持った方が良くと思う。高橋清さん(昨年91歳で二段を取得)の例もあり又講師として努力しているお年寄りを見ていて逆に頑張れるという気持ちになります。兎に角希望を持たないと打てなくなるし、伸びも止まるので自分も今年はまだ1回気入れ直したいと考えています。

久 ブロック戦、最高位戦などで肥塚さんは活躍されています。6段位の人達はそういう場に出て行くことで前向きになれるのでは…？

肥 そういう意味で自分は、そういう他の大会に出て行こうというのが1つのモチベーションであり、このままではいけないという気持ちになる。昔ヨーロッパに行った時に、親しい碁友達が”肥塚さんは日の丸を背負っているのですから、日本は先生の国だから(勝つだけではなく)恥ずかしい碁だけは打たないで欲しい”と云われた。これも自分で自分を律する為の1つの支えになっている。今は少なくとも人に対してでなく自分としてしっかりと碁を打っていこうという事をモチベーションにしないといけないのでは、例えば<置き碁>でいい加減な碁を打つと相手に悪いことになるし自分にも悪い。先日の矢代プロの指導碁を見ていると、大変厳しい碁を打っていました。やはりタイトルを取る中で苦勞している事が指導碁の内容に表れているのが良く判る。その厳しさを止めてしまっただけでは矢代プロもタイトルを取るまでには至らなかったかも知れない。そういう矢代プロの指導碁から教わるという事は大きいと思った。

久 杉浦さん、学校とかはまっこスクールの生徒達の数はやはり減っているのですか？現状はどうでしょうか？

杉 「はまっこ」の組織は大分変わりました。1年生しか出席しない学校もあるし、「はまっこ」自体が色々なことを経験させようと管理者がどんどん新しいものに移行して行ったりで、「はまっこ」での囲碁指導がしんどいという囲碁ボランティアが増えています。小学校のクラブでも囲碁だけを年間通じて行うのではなく囲碁の他将棋やオセロやトランプをやったりで、月1、2回の中で色々な事をやるので、年間10数回で囲碁をやっても普及は難しいといわざるを得ません。



久 中学校になるとクラブ活動があるので上手にかみ合えば良く、西本郷中学校が成功している好例です。しかし此処も指導者が学校の人ではなく外部から何人かが協力しているのが実情で、秦氏も積極的に指導してくれています。こういうケースがどんどん増えれば将来は明るいと思っています。例えば今年横浜栄高校で「3世代交流」という区内のシニアクラブの人達と生徒とPTA・職員の3世代の交流がありました。毎年プログラムに囲碁が入っており、今年初めて囲碁の出来る先生が担当になって、又補助教員制度もあって定年退職した人がサポートしてくれて近々栄高校の中に囲碁部ができるかもしれないと期待しています。囲碁部が出来れば栄区囲碁普及会としての応援しましょうと、先生と話し合ったりしました。こういう流れで少しずつ囲碁人口が増えてくれればと思っています。

肥 中学校以上ではクラブ活動として囲碁クラブが出来て、そこと我々が結びついていければ効果的でしょう。それと共に親達へのアプローチも大切になってきますね。足がかりとして将来を見据えて「親子教室」を何回か繰り返し持つことでデータを蓄積していければ、これから(ビラを配る方法ではなく)個人をターゲットに普及活動が出来れば良いのでは…。囲碁連盟がこれだけ人を集められるのは、常にハガキを個人宛に案内を出しているからで、一般的に、ビラを配布して大会をやりますと云っても集まらないと考えています。

(小田) 囲碁連盟において子供達の現状はどうですか？入会勧誘などどうされているのですか？

久 子供は何人か入会してますが限られてますね。樋口君も入っていますが支部にも入っていて、どちらかというと支部で育てて貰って連盟に入ってくるという状態ですね。

杉 今樋口君の話が出ましたが、彼は中学で三段になりましたが高校に入って仲間を集めて囲碁部を作っちゃいました。全く”0”の子を指導して19路盤で打てるようになったと言っていました。年末には3人で新人戦に出場したそうで、四段の樋口君を除くと18級が二人でした。先生も居なくて全く樋口君がひとりで進めているとのこと。子供ひとりを強くするとこのような可能性も出てくるという訳で、現在本中・日曜教室に居る横谷君が4級でこの4月に本郷中

学校に入学するので本中で囲碁部を作ったらと勧めています。

(小田) 子供達へのアプローチとして例えば、囲碁連盟では年会費・500円で、支部では年会費・200円で入会を勧めてみる案などは如何でしょう？

肥 日本棋院としても曲がり角に来ており、何かを核にして囲碁人口を増やしたいと考えているようです。例えば準会員とか学生会員等の制度を取り入れて、今までのように雑誌を購入しないといけない制度を少し緩めて見よとの動きもあります。他方日本棋院が公益法人の申請をする方向で動いているが、要件に普及をきちんとする事になっていてプロ棋士が単に集まるだけでは駄目ということ。普及という公共性が問われるので大竹理事長も、そこを強調しているようだ。将棋連盟も同じで予算17億円の中2億円を普及に充当するそうで、手弁当でやるという覚悟のようである。日本棋院といえば、予算規模が50億円ありちょっと贅沢で普及にかかる予算が1億2千万円との事だが少ないと思う。多分もっと予算を増やさないと公益法人として認められるのは難しいのではないかな？プロ棋士も自分達だけの利益を考えていたのでは難しいということでしょう。従ってプロ棋士も昔と比べれば大変な状況に置かれているということですね。

(橋本) はまっこの話に戻ると子供の時間的制約もあり続けるのが難しいという側面もある。色々な事をやらなければならぬし、当然塾もある。2番目には子供の実践というか、人気投票的にクラブを作ったりしてリーダー的な発言をする子供達が少なくなっている。親の意見を入れたり先生は先生で意見がふらついている現状を見ると中途半端になっている。

(小田) 「盤樹の森」で将棋の谷川九段はこう云っています。「子供に対し、将棋・囲碁を覚えると頭が良くなるだけでなく、将棋・囲碁には勝ち負けがあり負ければ負けた責任を取るんだという事を一緒に教えることで、勉強だけでなく人間の成長に良いと教えると、親のほうを理解して子供に将棋・囲碁を勧めることになる」と。この考え方を学校などに伝えたい。

肥 1つの事を、囲碁でなくてもしっかり取組めばちゃんと成長するもので、囲碁で樋口君のように成長してくれると本当に嬉しくなります。

(小田) 先日の「親子囲碁教室」で永代先生が親子を前にして「囲碁をやる勉強も出来るようになるよ！」と話しましたが、親がその気になるように親に向かって伝えているようで、上手い説明の仕方と感心しました。

杉 今回の「親子教室」のように専門家を呼んで教室を開いてくれると、我々インストラクター達も大変勉強になって良かったと思っています。

久 「親子囲碁教室」も良かったが同時に支部が行った「段級位認定会」についても、認定会で勝ちたいと思う希望に応える場所を提供することが重要だと思っています。他方高段者が指導するのも級位者・低段者に対し大きな刺激となり、良いことですね。連盟では、支部のない頃は秋の囲碁祭りにプロ棋士を呼ぶことで貴重な機会を得られ感動もありました。最近は支部が年2回プロ棋士を呼んで下さるので刺激も増え、栄区のレベルアップに繋がって恵まれていると思っています。



(小田) そろそろ「来年の夢」について語って頂けますか？お願いします。

杉 先程も述べましたが、子供が囲碁を打てる場所をどうやって増やすのか？又増やしたいと考えています。1つは例えば「はまっこ大会」のようなものを開きたい。又アミー碁に無料参加させて子供を増やしたいと考えています。

肥 今年から引き続き若い世代にもう少し囲碁に目を向けさせ、取り組みを少しずつでも進めたいと考えています。感じたのは、今年2月の「鎌倉子供囲碁大会」に参加したとき親達が積極的に協力している事で、これが1つのヒントになり栄区でも取り入れられれば、すなわち親をもっと引き込めば子供達もついてくると思いました。今は割とお年寄りの人と子供達への足がかりを掴んだところで我々も忙しいが、この取り組みを更に考えるのが夢ですね！

久 連盟としては現在会員が140名位で過去最高にはなっていますが、行事項目はあまり変わりなく推移しています。にも拘らず、参加者が段々多くなっているのは碁に対する興味、関心が高くなっているからではないでしょうか。それだけに期待に応える、魅力ある内容の企画を立案しなければと考えます。

(小田) 秦氏にお聞きしたところ、栄区の高段者レベルは横浜18区の中でも非常に高いが、低段者及び級位者のレベルは中以下との事でしたが、今後の対策は・・・？

久 級位者については参加者が「さばよんで」申請出場している人もあり問題になっていますが、各区で認定基準も違い難しいですね。栄区は棋院支部や普及会での認定を参考に自己申告で申請してきますので、それを認め横浜市大会に参加するようにしています。

杉 大会の段級位と普段打っている段級位とが違うのが問題ですが、普及会としてもあまりギャップがない程度で生徒さんがあちこちの認定会で取得した級位を認定しています。普段の形で級位を認定した方が良いのではと考えています。

肥 色々考え方はあつてしかるべきと思うが、ハンデ戦ではハンデの申告が問題で、かなりさばよまなくては優勝できないのが実体です。

(橋本) 港南区とか鎌倉など周辺地域との連携を考えてはどうですか？栄区のレベルアップだけでなく、お互いの交流も広がるのでは・・・？

肥 大変良いことだし必要なことだと思います。ただ現状は難しいのではなく、他の地域で連盟があっても日常的には「あつてなきがごとし」が多い。普段連絡を取っても集まらない。しかし鎌倉市は連盟がなくても色々な人が子供達の間を立ち上げてくれている。そういうことでどんどん連携を図れば良いと考えています。港南区の囲碁連盟の会長を良く知っているが、日常的に活動してないので大会を開催しても全体で35名しか集まらなかったとか漸く50名集まったとかいう程度です。10年前に戸塚区が分区(栄区、泉区)した時に1回だけ大会を開いたことがあった。それは戸塚区に囲碁連盟があり栄区では須賀さんが囲碁連盟をやっておられたのですが、それでも10名名位ずつ集めてやりましょうという程度でした。港南区には強い人は居るが囲碁人口は増えているとはいえない。

(橋本) 鎌倉の子供大会に行ったが、親たちの熱意を感じた。この辺を参考にして栄区も考えたら良いと思う。遊びの心を前面に出しても面白いのでは・・・？

杉 普及会の教室にも港南区、磯子区、金沢区から来ている人達も居るので、将来性はあると考えています。

久 普及会の制度について、内容・卒業について少し替えられましたよね？好評だと聞きました。

杉 生徒さんは皆んなずっと教室に残りたいんですよ。又延長してくれるよね！との申し出が多い。やはり初段が夢というのが結構強くて”初段になるまで居させて欲しい”との声大きい。

久 結局教室が碁会場みたいになってしまう。7、8級の人が多く希望している。栄区の人口から見ると2025年まで高齢化が進むと予測され団塊の世代の人が入ってくるので、卒業して欲しい人達の数は当分減らないでしょう。

(小田) 普及を考えると第1が子供達ですが次には、団塊の世代が60歳を越え一般社会の戻ってきて趣味の世界に入ってくることを考えると、この人達を取り込みたい。そこで囲碁連盟と支部には、大人向けには準会員みたいな制度を創り、会費は安いですよ・・・と呼びかけては？子供達には子供部のようなものを設け、年会費200円でよいので会員になりませんか・・・と案内するようなことを検討して頂きたい。

肥 普及会としても新しい生徒さんをどんどん入れていかなければいけないし、その為にも旧い人達がいつまでも残っている現状は考えなければいけないでしょう。級位者も自分がどの位強くなったかを大会に出て確かめたいいものです。

久 全く同意見で支部の認定会を見ても皆んな自分の実力を知りたい、強くなりたいという意識が強く表れていました。

杉 その点を考えるのが、当面の課題ですね。

肥 しかしあまり勝ち負けにこだわって欲しくないという面もあり、最近私は「負けても構わない、明日に繋がる負なら良い」と指導しています。早く上達する必要はないという考え方をが必要では・・・？

杉 早く上達してもどこかで壁にぶつかる訳だから・・・ですね。挫折だけはさせないように・・・。

久 「さかえの石音」について、連盟、支部との協力によって情報が共有され大変良いと評価していますが、さらなる活用について現状はどうなっていますか？

杉 現状配布した方が良いと思われる先には、全て配布しています。第11号は最終的には800部印刷し配布してくれる協力者の方々にお願いし各方面に配布しました。具体的には栄区役所関連、日本棋院関係、普及会各教室、各クラブ、学校関係などです。さらに各地区センター、コミュニティハウス、ケアプラザ等にも配っています。

久 記者とか、情報の収集はどうされていますか？

杉 現状普及会、支部、連盟にはオーバーラップして加入している人が多いので、色々な人例えば連盟関連の情報なら中村さん(普及会の副会長でもあるし)、支部関連では植田さんから得られます。ですから今では普及会のというより連盟・支部の囲碁情報を中心に集めて、多くの人達に配布したいというのが基本です。

(小田) ですから今は記事を収集してくれる人、会報を配布してくれる協力者を求めています。シリーズで教室の紹介、クラブ訪問を取り上げているので、その教室の方とかクラブの方に取材から記事まで一切をお任せする方向で仲間を増やしたいと考えています。連盟については牧野さんが編集に入ってくれますので情報は入りやすいし色々協力して下さっています。

(小田) 最後に皆様から一言ずつ頂きたいと思います。

肥 全てがそうですが、続けていく事が大事で、特に普及会のインストラクターの方々が毎年数人でも入ってくる状態が望ましいしいと考えています。一時的に盛り上がりでも継続しなければ意味がないですから。普及会について言えば卒業生が初段になったら、今度はインストラクターになって指導をするといった繋がりが大事と考えています。

久 連盟としてとか支部としてとかにあまり拘らず広い視野で発展に取組めたら良いと考えていて、本日のような懇談会は大変良かったと思い、今後もお互い情報交換しながら刺激を与え又受けながら活性化に努力しようと考えています。

杉 肥塚さんからインストラクターの補充という提案がありました。私のほうでは核となる高段者の補充が難しく、その為に囲碁連盟の協力をお願いしたい。特にカリキュラムの作成など高段者の指導が必要です。その他、子供達をどうするのか、近隣地域との連携を拡げるなどが、課題となります。

(橋本) 「さかえの石音」について、皆が手分けして頑張っているが、会報の編集について知識と経験を有した人を探して協力して欲しい。現状編集、製作では皆が苦勞しているので、かつて会社で広報を担当していた人などが居て協力してもらえれば助かるのですが・・・。

肥 現在支部としても「さかえの石音」の拡がりを重視し、神奈川県囲碁連盟の平山会長にも渡すようにしています。平山氏は支部連合会の会長でもあるので「さかえの石音」は、今や神奈川県下でちゃんと位置づけられている。その意味でも「さかえの石音」が発行される事は重要であると認識しています。

(小田) 本日は本当に長時間懇談頂き、ありがとうございました。「さかえの石音」新春(第12)号の巻頭に掲載させて頂きます。

以上
(H23年2月11日作成、文責・小田編集委員)